



KJケミカルズ

八代工場の増強工事完了

環境関連の取り組み強化

熊本県八代市に生産拠点
を構えるKJケミカルズ。
世界シェアトップを誇るア
クリルアミド誘導体モノマ
ーに続き、高溶解性溶剤の
増強工事も完了した。引き
続き環境対応をキーワード
にした市場展開、製品開発
を進めていく。

八代工場では2022年度
のアクリロイルモルフォリ
ン（登録商標ACMO）の
デポトル増強に続き、23年
度にタイラセトンアクリル
アミド（DAAM）の設備
増強を行った。

八代工場では一連の能力
増強工事が完了した。来年
度は製造部門の合理化はも
ちろん、業務管理や既存設
備、環境安全など工場全体
の合理化に取り組み、中島
康博（工場長）としても活
環境関連の取り組みも活
発。仏エコパデイス社のサ
ステナビリティ調査でゴー
ルド評価を3年連続で獲得
した。設備面では22年から
可能エネルギー由来に切り
替えた。

インキ・粘接着剤などの
環境対応が進むなか、同社
のアクリルアミド誘導体モ
ノマーは、その原料として
引き合いが増えている。拡
大する需要に対応すべく、

ノマー、オリゴマーに続く
柱として育成を図っている
のが高溶解性溶剤だ。電気
絶縁ワニスの樹脂溶解など
に使われるもので、環境影
響が懸念されているNMP
（チルピロリドン）（NMP）

研究開発も環境対応にフ
ォーカスしている。アクリ
ルアミド誘導体モノマーで
はバイオマス原料を用いた
製品を新たに開発してお
り、顧客への提案を始めた。
地域軸の取り組みでは、
自社の設備保全やロジステ
ィックスを担う「KJケミ
テック」を昨年立ち上げ、
活動を始めた。溶接の指導
員資格を持つ人材が教育に
当たり若手技術者を育成。
自社のプラントメンテナ
ンスを担うが、将来的には外
部案件にも対応する構想
だ。



八代工場ではアクリルアミド誘導体モノマー
に続き、高溶解性溶剤の増強工事も完了した